

II 修学上の情報等

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績

・教員組織

- 現代社会学部：学位及び業績は[教員紹介](#)をご参照ください。
- 子ども育成学部：学位及び業績は[教員紹介](#)をご参照ください。

2. 入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数

・入学者数、収容定員、在学者数

・卒業者数、進学者数、就職者数

3. 授業科目一覧、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス)

- 現代社会学部 [・2023年度 講義要項](#) [・2022年度 講義要項](#) [・2021年度 講義要項](#) [・2020年度 講義要項](#)
- 子ども育成学部 [・2023年度 講義要項](#) [・2022年度 講義要項](#) [・2021年度 講義要項](#) [・2020年度 講義要項](#)

※各科目のシラバスは、シラバス検索よりご確認ください。

4. 学習の成果に係る評価及び卒業認定に当たっての基準

・成績評価に基づく学修指導・支援について

- 現代社会学部：[進級要件・卒業要件](#)
- 子ども育成学部：[進級要件・卒業要件](#)

5. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

- ・学生の学修支援 [アカデミックアドバイザー](#) [情報センター](#)
- ・学生の進路就職支援 [キャリア支援センター](#) [キャリアカウンセリング](#)
- ・学生の健康等に係る支援 [健康管理センター](#) [カウンセリング室](#)

6. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

・科目ごとの目標

※科目ごとの目標は各シラバスをご確認ください。

・履修モデル

- 現代社会学部：[カリキュラムツリー\(新\)](#) [カリキュラムツリー\(旧\)](#)
- 子ども育成学部：[カリキュラムツリー](#)

・主要科目(学部必修科目)の特長

■現代社会学部

	区分	科目名	特長
教養科目	人間理解科目	日本語表現技法	社会で生活する際に、コミュニケーション能力は不可欠であり、日本語を使うことは、私たちにとって一生関わっていかねばならないことです。この授業では、大学生活を送るうえで必要な様々なスキルを習得しながら、日本語を使って「読み・書き・話し・聴く」能力を全般的に高めます。
	社会理解科目	情報科学概論	情報科学概論では、コンピュータ、情報端末、ネットワークなどの情報技術やインフラと私たちの社会との関わりについて、身近な事例を通して仕組み学び、社会を支える情報システムについて学ぶ。日常生活で無意識に利用している情報システムや情報機器などの仕組みの一端に触れながら、コンピュータ、ネットワークと情報化が現在の情報社会にどのような影響を与えているかを学ぶ。また、ビッグデータ、データサイエンス、人工知能(AI)、IoT(モノのインターネット)、デジタルトランスフォーメーションなど、最近の話題も盛りこんで、「情報とは何か」「情報科学とは何か」を学ぶ。講義にはスマートフォン・タブレットを使用し、情報科学に対する理解を深める。
	外国語科目	英語 I	This course focuses on improving reading, writing, and speaking skills acquired in high school while preparing students for academic university English study. The class will be comprised of reading comprehension exercises, writing assignments, and in-class discussion. Students will be expected to master necessary vocabulary, complete assigned exercises before class, and speak and discuss in English during class.
		英語 II	This course focuses on improving reading, writing, and speaking skills acquired in high school while preparing students for academic university English study. The class will be comprised of reading comprehension exercises, writing assignments, and in-class discussion and activities. Students will be expected to master necessary vocabulary, complete assigned exercises before class, and speak and discuss in English during class.
	情報基礎科目	ビジネス情報演習 I	会社業務や社会生活において必要不可欠となる、コンピュータを用いた文書作成能力に関する知識を習得することを目的とする。併せて、画像・表などを用いた表現力のある文書の構成方法と、パワーポイントを用いたプレゼン資料作成方法についても学ぶ。なお、本授業の前半では、大学で各自のノートパソコンを利用するための基礎事項について解説し設定も行う。
		ビジネス情報演習 II	会社業務や社会生活において必要不可欠となる、コンピュータを用いた文書作成能力に関する知識を習得することを目的とする。併せて、画像・表などを用いた表現力のある文書の構成方法と、パワーポイントを用いたプレゼン資料作成方法についても学ぶ。なお、本授業の前半では、大学で各自のノートパソコンを利用するための基礎事項について解説し設定も行う。(担当教員:企業での実務経験あり)
	キャリア・実務科目	キャリア・デザイン講座 a	大学生活を有意義に過ごすために、入学から卒業までの4年間の大学生活を考える。
		キャリア・デザイン講座 b	日々のニュースを題材に、その意味や背景を探り、ニュースを読み解くように努める。
		キャリア育成講座	本授業は、富山県を中心とした企業の方を招いて直接講義を受けます。地元でどのような企業があり、各企業はどのような経営理念や経営方針のもとで経営活動を展開されているのかを知り、「働く」ということはどのようなことなのか、「地域で働く」とはどのようなことなのかを考察する。授業計画に示す内容は、企業の方との調整を回り、適宜変更する可能性がある。
	教養演習科目	キャリア支援講座 a・b	キャリア支援講座は前期aがインプット、後期bがアウトプットの2部構成です。
		教養演習 I a・b	教養演習 I は「1年ゼミ」とも呼ばれます。1年ゼミ(ゼミナール)は、年間を通して、少人数で、大学生活を送るために必要なスキル(アカデミックスキル)を修得することを主なねらいとして行われます。通常の授業(講義)とは違い、学生の発表や意見交換・討論に重点を置いた運営がなされます。ゼミ担当教員は、アカデミック・アドバイザーと称され、勉学面での指導はもちろん、大学生活全般にわたるアドバイスなどを行います。なお、基本的には下記の「授業計画」に従った進捗となりますが、必要に応じ、前後の順番や実施内容が変更になることもあります。
		教養演習 II a	教養演習 II は、学生の発表や討論に重点を置いて進める授業です。本や新聞などの文章を通じた情報収集(input)、得た情報から自分で考えること(think)、その考えをレポートにして(output)発表するなどの演習を通して、他人に対して論理的に自分の考えを述べる力を身につけます。同時に、社会への関心も高めていきます。下記の「授業計画」の内容については、前後の順番や実施内容に関して若干変更する場合があります。またアカデミック・アドバイザーと呼ばれる担当教員は、勉学の指導だけでなく、履修指導など大学生活全般に関するアドバイスにも当たります。
教養演習 II b		後期の教養演習 II においても前期同様、一般の講義に比べ、学生の皆さんの発表や討論に重点を置いて進めます。またアカデミック・アドバイザーは、3年次での専攻の勉学に備え、学習全般にわたるアドバイスを引き続き行います。具体的には、前期同様、本や新聞を読んで、これまで以上に完成度の高いレポート作成を目指します。こうした学習によって、4年次での卒業論文作成や将来、社会人となったときに求められる基礎力を身につけます。なお、下記の「授業計画」の内容については、前後の順番や実施内容に関して若干変更する場合があります。	
基礎科目	現代社会基礎科目	現代社会概論	本授業は、日本および世界における現代社会の諸問題を、観光・環境デザイン・経営情報・国際という学問的ベースをもとに「過去・現在・未来」という時間の流れの中で捉え、これから私たちはどのような生き方をすべきかを考えることを目的とする。授業は現代社会学部の教員がミニバス形式で行います。皆さんは現代社会の諸問題を理解しその解決の考え方を理解するように努めてください。
		環境・社会・企業と倫理	人が何をすべきであり、何をすべきでないかという倫理を、社会で生起する様々な視点から考察します。特に、環境倫理、企業倫理、社会生活での倫理の立場から考えることにより、良識ある市民として行動できる基礎を培います。なお、企業倫理に関する回は、企業での実務経験のある方を講師として授業を行います。
	地域づくり科目	地域づくり実習	現代社会学部の中心的課題ともいえる「地域づくり」の導入段階として、地域連携の基礎知識と基礎技能を身に付けることを目的とする。授業はPBL(問題解決型学習)形式で実施し、地域のさまざまな組織へのヒアリングや地元の方との討論などを通して問題を発見してそれを明確化し、その課題を解決するための手段や対策をグループワークを通して立案する。その成果は地域において発表し地域の皆さんの評価をうける。【SDGs:目標11. 目標8】
	国際交流科目	国際関係論	国際情勢を読むツールとなる理論の基礎を学び、多くの国際報道に触れながら、身の回りで起きている事象への洞察力をみがく。

■子ども育成学部

	区分	科目名	特長
教養科目	人間理解	体育講義	現代社会における体育・スポーツのもつ意義・役割・スポーツ環境について理解する。スポーツ活動と体力との関係、およびトレーニング法について理解する。子どものスポーツ活動および発達と運動能力との関係について理解する。
		体育実技	各種スポーツのルール、戦術、練習方法の特徴を理解するとともに、実践することによって、運動・スポーツ実践の楽しさ、醍醐味を味わい、生涯スポーツ実践のための運動継続への意欲をたかめる。各種スポーツの技能の向上を図り、よりレベルの高いゲームができるようになることを目指す。
	社会理解	日本国憲法	「憲法」とは、国家をどのように治め、いかなる仕事をどのような方法で行うかを定めた国家の基本法です。国家権力は常に濫用される危険性があるため、近代憲法は権力担当者に対し、人権を保障する義務を課するとともに、予め権力を縛りかけました。授業では、こうした「立憲主義」の概念を理解するとともに、多様化する現代の人権状況と、その人権を守るべき統治システムについて考えていきます。また、教育・保育・福祉の専門性を高めていくことにも留意し、各分野で日本国憲法がどのように関連するかも学びます。
		生涯学習概論	欧米の生涯教育の理念が我が国に導入されてきた経緯、日本の教育政策にもたらした変化について理解する。また、人間の成長発達理論を学ぶとともに、生涯学習施設・機関、少子高齢社会、男女共同参画社会など様々な視点から我が国の現状と課題について考察する。「生涯学習」の理念を知り、様々な課題の考察を通して、学びをアップデートする意味を問います。
	国際化対応	英語Ⅰ	The main aim of this course is to develop students' oral fluency in English, while solidifying basic grammar and increasing vocabulary. Students will learn to communicate in English more clearly and effectively through working together in pairs and groups. In addition, the course provides opportunities to learn about English language activities for children, with focusses on games, songs, and stories.
		英語Ⅱ	This course is aimed at widening and deepening the students' world knowledge, while improving their 4 skills in English. It offers opportunities to learn about several countries in the world through watching videos and reading articles. The course ends with the students' group projects by which they introduce Toyama to foreigners, both orally and in a written form.
	情報化対応	情報リテラシー	政府が2021年度から推進する「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、第5期基本計画で提起された「Society 5.0」の具体化が宣言されている。これは、「『狩猟社会』『農耕社会』『工業社会』『情報社会』に続く、人類史上5番目の新しい社会」として定義されているものである。一方、産業界においては、データとデジタル技術を活用してビジネスモデルを変革する「デジタルトランスフォーメーション(DX)」の取り組みが進んでいる。教育界では、小学校プログラミング教育やGIGAスクール構想など、教育の情報化の取り組みも加速されつつある。本授業ではまず、これらの動向を概説する。その後、政府の「AI戦略2019」が掲げた目標「文理を問わず、全ての大学・高専生が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」に従い、そのカリキュラムに沿った授業と演習を行う。さらに、情報セキュリティについても説明する。
		情報処理演習	情報処理の基礎知識を学び、大学での研究活動および社会人として職務に就く時に備え、最低限のスキルを身につける。
	キャリア系科目	キャリア入門講座	現役の小学校教諭、社会福祉士、幼稚園教諭、保育士といったスペシャリストを講師に迎えるなどして、それぞれの分野の日々の仕事の内容、やりがいなどについて理解を深めることにより、職場と専門職像について学ぶ。
	演習	教養演習Ⅰa	「教養演習」において、専任教員ごとに少人数のゼミクラスを編成し、①大学における学習・生活のための導入教育、②子ども育成(子どもの教育・保育・福祉)への興味関心や課題についての調査研究・発表、③学生相互・教員との交流や人間的ふれあいを図る。「教養演習Ⅰa」では、「①導入教育」として初年次教育や自校教育、「②調査研究・発表」の基礎となるリテラシーガイダンス、「③人間的ふれあい」として学部交流会への参加や異学年活動を行う。
教養演習Ⅰb		「教養演習」において、専任教員ごとに少人数のゼミクラスを編成し、①大学における学習・生活のための導入教育、②子ども育成(子どもの教育・保育・福祉)への興味関心や課題についての調査研究・発表、③学生相互・教員との交流や人間的ふれあいを図る。「教養演習Ⅰb」では、研究倫理やレポートの書き方について学び、文献研究に取り組んでレポート作成と発表を行う。	
教養演習Ⅱa		専任教員ごとに少人数のゼミクラスを編成し、①大学における学習・生活のための導入教育、②子ども育成(子どもの教育・保育・福祉)への興味関心や課題についての調査研究・発表、③学生相互・教員との交流や人間的ふれあいを図る。	
教養演習Ⅱb		専任教員ごとに少人数のゼミクラスを編成し、①大学における学習・生活のための導入教育、②子ども育成(子どもの教育・保育・福祉)への興味関心や課題についての調査研究・発表、③学生相互・教員との交流や人間的ふれあいを図る。	
生活文化演習		「生活文化」は、人々が生活を営む地域や場所、時代、宗教、思想など様々な要素を含み形成される文化だと言えます。この演習では、富山県や日本の地域性、国際社会との関係性にも注目しながら、日本に暮らす人々の生活文化を理解し、具体的に体験していきます。	
地域社会参加活動		グループワーク等を通して、地域社会や地域活動について考える。また、授業時間外に地域でのさまざまな活動に参加し、その体験について各自で活動を振り返って「活動レポート」を作成する。全体で「活動報告」を行うことにより、振り返りを共有する。「最終報告書」を作成して活動全体のまとめを行う。	
専門科目		子ども育成の理論	子ども育成入門
	子ども育成論		子ども育成の理論に関する中核的な科目3科目(「子ども育成入門」、「子ども育成論」、「子ども育成専門演習」)のうち、発展科目として「子ども育成論」を開講して、子ども育成の理念と意義、目標と方法、現状と課題等について考察し、保育・教育・福祉の視点から総合的に学ぶ。教員3人によるオムニバス形式とし、子ども育成についてそれぞれ保育学・教育学・福祉学の視点から論じる。(科目担当教員:幼稚園教諭としての実務経験あり)
	子ども育成専門演習		子ども育成の理論に関する中核的な科目のうち統合的科目として「子ども育成専門演習」を開講し、保育・教育・福祉の視点から総合的に学ぶ。1年次の授業「子ども育成入門」及び「子ども育成論」を踏まえ、子ども育成の現場における実践をめぐる、教育学・保育学・社会学・福祉学の視点から考察する。学年を3つの演習グループに分けてローテーションし、それぞれの分野の視点から子ども育成について学ぶ。
	保育原理		保育の理念並びに歴史や思想、法令や制度がどのように現代の保育につながっているのかを学ぶ。また、子どもを理解することの意味や、保育の環境、具体的な方法や内容についても学ぶ。講義を中心とするが、適宜小グループに分かれ、テーマについて討論したり、子どもたちの実際の遊びを取り入れたりしながら理解を深めていく。
	教育原理		授業を通して、受講者自身が教育及び子ども家庭福祉とは何かを考え、現代社会における教育及び子ども家庭福祉に関する諸問題について、批判的に考えるための知識および教育実践力を養う。
	教育心理学		学校教育にかかわるテーマを中心に、教育実践の観点から子どもの心理発達を考察する。講義では、記憶、学習、動機づけ、学級社会、教授法、教育評価などについて解説する。
	児童・家庭福祉論		「子ども家庭福祉の意義と歴史」「子ども家庭福祉の制度と実施体制」「子ども家庭福祉の現状と課題」を柱として、子ども家庭福祉全体について現実を踏まえながら考察を進める。テキストを基本としつつ、最新の資料や参考文献等を随時提示する。履修者一人ひとりが、現状の課題とその克服のための方策について、自ら考察を深めることを希望する。
	子ども育成の内容・方法	教育課程論	わが国初の近代学校体制として作られた学制(1872)から現在に至るまでの小学校教育課程について概観し、わが国の小学校教育課程管理等の基本的な理解をする。また、小学校学習指導要領の変遷を、社会の変化と対比して理解する。小学校学習指導要領(平成29年告示)をもとに、新たな学力観を理解し、教育課程の編成方法についてグループ等で討議する。また、カリキュラム・マネジメントの手法を学ぶ。
		教育方法論	学習指導要領に基づく、教育方法の基礎的・基本的内容を理解するとともに、教育方法の歴史の変遷、授業、学力、子ども理解など、小学校現場における様々な課題を取り上げ、具体的な実践に即しながら展開する。講義形式をとるものの、情報機器の活用や授業観察、模擬授業、グループ討議などを取り上げていく。実務経験のある教員による授業
	子どもの発達と環境	発達心理学	生涯発達心理学の観点から、乳幼児・児童を中心に精神発達の様相を発達段階にそって解説する。発達上の困難を抱える子どもについても解説する。
	子ども育成の相談・援助	教育相談	教育現場で起きている、いじめ・不登校・学級崩壊・非行など様々な問題の原因と背景を理解し、適切な援助のための方法としてカウンセリング・マインドに基づく教育相談の理論と方法について学ぶ。併せて、教育相談と並んで、教育問題への対応に重要な役割をもつ生徒指導の理論と方法についても学ぶ。さらに、家族への援助・校内スタッフとの協力・他機関等とのあり方について考える。
	子ども育成の研究	卒業研究Ⅰa・b	指導教員の指導を受けながら、各自の研究テーマを設定し、研究計画を立てて、卒業研究中間発表を行う。
		卒業研究Ⅱ	各自の研究テーマについて、指導教員の指導を受けながら研究を進め、最終的には卒業論文を作成して提出し、研究発表を行う。